

学年	教科	科目	教科書名
中1	国語	国語	新しい国語1 (東京書籍) 現代の書写 一二三 (三省堂)

## 1. 授業のねらい

- ・国語の基礎として、漢字・語彙・文法・修辞表現や用語などの知識を身につけます。
- ・漢字学習においては漢字検定4級取得を、ことわざ学習においてはことわざ検定5級取得を目標とします。
- ・さまざまな文章の読解や授業での取り組みを通して論理的思考力を育み、「読む・書く・話す・聞く」能力を養います。
- ・文章構造など表現の基礎を学ぶとともに、それらを活用し、自分でも論理的で説得力のある表現ができる能力を養います。
- ・探究活動や言語活動、アクティブラーニングなどを通じて、物事を多面的・多角的な視点から解釈する力を養います。
- ・高等学校での学習に先んじて、古典分野に関し、古語や文法、句法や助字などの基本知識を身につけます。
- ・RST(Reading Skill Test)の結果から文章を読む際の阻害要因を把握し、それを基に正しく読むための力を養います。

## 2. 授業のすすめ方

- ・複数資料を関連させ読み解く力を養うため、教科書本文を中心に、資料集やデジタル教材などを適宜利用し授業を行います。
- ・授業開始5分間程度、漢字練習や語彙習得の時間を設け、漢字や語彙の定着を図ります。
- ・記述問題や小論文に対応できるよう、各単元や定期考査などで、自分で表現を添削しながら文章を書く作業を行います。
- ・「読む・書く・話す・聞く」能力を養うため、各単元や定期考査などでさまざまな言語活動を実践します。
- ・副教材を用いて、基礎的な読解力や知識などを習得するためのトレーニングを適宜実施します。

## 3. 学習上の留意点

- ・授業中に黒板に書かれたことだけでなく、興味を持った言葉や考えをノートに記録することを心がけてください。
- ・小テストを実施するので、計画的に準備して試験に臨んでください(平常点として評価されます)。
- ・授業で学習した部分は何度も正確に音読して、意味のわからないところは辞書で調べておきましょう。
- ・授業では積極的に意見を発表し、アクティブラーニングの時間には仲間と意見交換を積極的に行っていきましょう。
- ・平素からさまざまなことを鵜呑みにせず、自分の考えの前提や根拠などを説明できるように意識していきましょう。

## 4. 副教材・参考文献

- ・『新・国語の便覧』(正進社) ※ 授業・予習・復習・発展学習に使用。(3年間使用)
- ・『解いて覚える中学生の文法』(とうほう) ※ 授業・予習・復習に使用。(3年間使用)
- ・『3回書き込み式標準漢字演習』(とうほう) ※ 小テストの出題範囲として使用。漢字検定対策(3年間使用)
- ・漢字練習ノート ※ 授業・自習用に使用。1冊終了後はプリントシートで継続。
- ・『読み方レスキューグレード1』(正進社) ※ 授業・自習用に使用。
- ・『「聞くこと」10分テスト』(正進社) ※ 授業・自習用に使用。
- ・『ことわざ検定4級・5級対応ガイドブック』(ことわざ能力検定協会) ※ 小テストの出題範囲として使用。ことわざ検定対策(2年間使用)
- ・長期休暇の課題。
- ・必要に応じて各種プリント並びにデジタル教材を配布します。

## 5. 評価の視点・テスト・課題等

- ・定期考査から客観的に評価し、そこに平常点(一・二学期は四〇点、三学期は二〇点)が組み込まれます。
- ・平常点は、小テスト(上記副教材参照)、宿題などの提出状況を総合的に判断し算出します。
- ・ロイロノートやClassi、スタディサプリで課した宿題等も平常点に反映されます。
- ・定期考査、平常点等を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

## 6. 定期考査

- ・教科書ならびに副教材を使用して学習した授業の内容を中心に出题します。
- ・試験に際しては、教科書の説明で使ったプリントや資料集、デジタルコンテンツなどについても学習して下さい。
- ・全ての定期考査に文法の出題があります。
- ・各学期の期末考査に、「聞く」能力を客観的に判断するための放送による出題があります。

<出題分野>

- 1 学期中間考査... 韻文・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 1 学期期末考査... 小説・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 2 学期中間考査... 古典・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 2 学期期末考査... 古典・韻文・小説(外国文学)・文法・漢字・語句・文章表現
- 学年末考査 ... 説明的文章・韻文・文法・漢字・語句・文章表現

※ 状況によって変動がある場合があります。

## 7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	1 言葉を楽しむ	小テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の意味を捉え、読み方を工夫し音読する。</li> <li>・話し方について知り、声に出し文章を読む。</li> <li>・音声の働きや仕組みについて理解する。</li> <li>・詩を鑑賞し、自分のものの見方を広げる。</li> <li>・具体的な描写を取り入れ文章を書き改める。</li> <li>・言葉を選び、表現を工夫し、詩を仕上げる。</li> <li>・言葉の単位について理解する。</li> <li>・活字と書き文字、画数、筆順を理解する。</li> <li>・作品を通じ、自分のものの見方を広げる。</li> <li>・相手の考えを理解し、的確な質問を考える。</li> <li>・つなぐ言葉や指示語の働きを理解する。</li> <li>・段落の役割や関係に着目し構成を捉え、内容を読み取る。</li> <li>・情報を的確に分類する。</li> <li>・段落の役割を考え、的確な文章構成で書く。</li> <li>・文の成分、連文節、文節の関係を理解する。</li> <li>・漢字の音読みと訓読みについて理解する。</li> <li>・本の中から目的に合う文や語句を見つける。</li> </ul>
		〈詩（巻頭詩）〉	提出物	
		〈言語感覚1〉	デジタルコンテンツ	
		〈日本語探検〉	定期考査	
	5	〈言語感覚2〉		
		〈創造的な言葉の力／表現力〉		
		〈詩歌創作〉		
		〈文法の窓〉		
	6	2 思いを捉える		
		〈文学一〉		
		〈論理的な言葉の力／議論力〉		
		〈日本語探検〉		
7	3 分かりやすく伝える			
	〈構成・展開〉			
	〈実用的な言葉の力／整理力〉			
	〈伝達〉			
		〈文法の窓〉		
		〈漢字道場〉		
		〈読書〉		
			R S T (リーディングスキルテスト) 実施	
二 学 期	9	4 考えをまとめる	小テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と筆者の考えを区別し展開を捉える。</li> <li>・事実と考えを区別し考えの根拠に注目する。</li> <li>・根拠を明確にして自分の意見を書く。</li> <li>・情報を整理し、順序立てて説明する。</li> </ul>
		〈吟味・判断〉	提出物	
		〈論理的な言葉の力／分析力〉	デジタルコンテンツ	
		〈論証・説得〉	定期考査	

	10	〈実用的な言葉の力／説明力〉 〈文法の窓〉 〈漢字道場〉 5 伝統文化に触れる 〈詩（日本語のしらべ）〉 〈古文〉 〈漢文〉		・単語の分類の仕方について理解する。 ・漢字の部首やその意味について理解する。 ・詩のリズムを感じ取りながら朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読み方に慣れる。 ・訓読を知り、漢文特有のリズムを味わう。 ・必要な情報を選び簡潔な構成でまとめる。 ・名詞の種類について理解する。
	11	〈通信・手紙〉 〈文法の窓〉 6 作品を読み解く 〈文学二〉		・場面展開を捉え、人物や情景に着目し作品を読み深める。 ・登場人物などの描写に注意し文脈を捉え、伏線に気づく。 ・語の意味、文脈の働き、多義語について理解する。
	12	〈創造的な言葉の力／解釈力〉 〈日本語探検〉 〈読書〉 〈毛筆 楷書〉		・目的に合った本を探し、必要な情報を読み取りまとめる。 ・文字の大きさ間隔などを意識しバランスよく書く。
三 学 期	1	毛筆 書き初め展 7 表現を考える 〈言葉とメディア〉 〈情報発信〉 〈感性・創造〉	小テスト 提出物 デジタルコンテンツ 定期考査	2月ことわざ検定 5級取得を目指す。 ・情報への接し方と使い方を身につける。 ・図表を用いて情報を効果的に伝える。 ・作品の表現を根拠に、考えが伝わるよう鑑賞文を書く。
	2	〈文法の窓〉 〈漢字道場〉 〈詩（詩の言葉）〉		・連体詞・副詞・接続詞・感動詞の働きについて理解する。 ・漢字の成り立ちについて理解する。 ・詩の中の言葉の意味を的確に捉える。
	3	〈読書〉		・文学作品を読み、情景描写などの効果について考える。

※ 状況によって変動がある場合があります。